

# 農業大学校跡地周辺地域整備基本構想の概要

## 1 背景

- ◆ 鶴ヶ島ジャンクション周辺地域基本計画基本方針により、農大跡地周辺地域に「近未来技術実証フィールド」を整備することが決定。
- ◆ 同基本方針のコンセプトである「オープンイノベーション」を実現するため、拠点となる施設も一体的に整備。
- ◆ ロボット研究開発は経済発展と社会的課題解決を両立する「Society 5.0」の実現に寄与。



## 2 現状分析

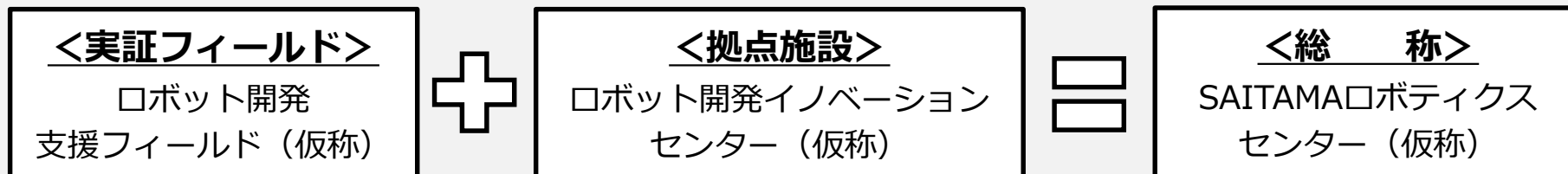
- ◆ 近年、クラウド技術やAI、ロボット、IoTなどのICT関連技術が進展、社会実装も進んでいる。
- ◆ 国では、経済発展と社会課題の両立を目指す「Society 5.0」の取組を推進。
- ◆ ドローン、スマート農業、サービスロボットの市場規模は拡大が見込まれ、この分野への参入が本県の中小企業にとってもビジネスチャンスで、実証フィールドの利用ニーズも高い。
- ◆ オープンイノベーションを促進するためには事業規模、業種等の垣根を超えた様々な事業者等が集まり、切磋琢磨できるような仕掛けが必要。
- ◆ 実証フィールドや拠点施設の整備は、中小企業等のロボット開発に大きく貢献。

## 3 農業大学校跡地周辺地域整備コンセプト

### コンセプト

### 市場規模拡大が見込まれる「社会的課題解決に資するロボット」開発を支援

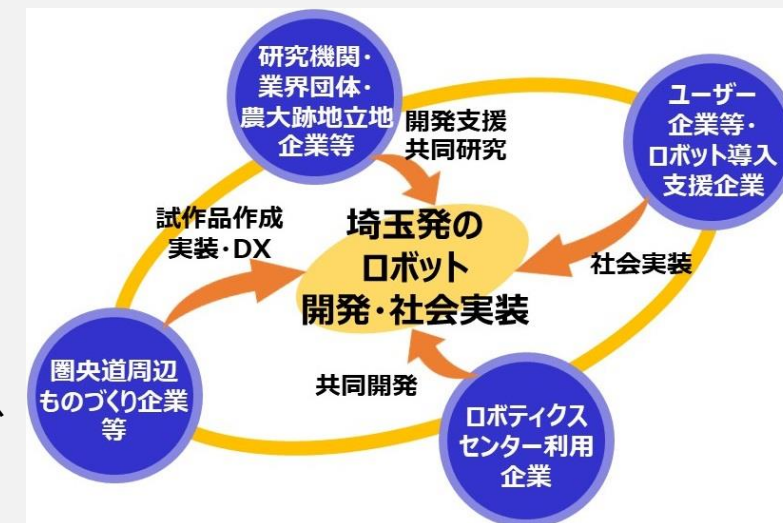
コンセプトを踏まえ、フィールド及び拠点の名称等を以下のとおりとする。



研究開発、実証実験、社会実装のプロセスを推進し、埼玉発のロボットを次々と生み出し、社会に送り出すことを目指していく。

## 4 事業の特色

- ◆ ロボティクスセンター利用企業、農大跡地立地企業、圏央道周辺ものづくり企業、ロボット導入支援企業、ロボットのユーザーとなる企業等によるコンソーシアム（連携協力体制）を構築。
- ◆ 各主体が協働して議論・研究を実施し、オープンイノベーションによりロボット開発・社会実装を促進。



## 5 整備の方向性

ロボットのユーザーも参加する「社会実装」を見据えた整備。

- ◆ **ロボット開発支援フィールド（仮称）**
  - ・ 約12haという広大な土地を生かし、ドローン、移動ロボットなどの実証実験の場を整備。
  - ・ 実証実験だけでなく、ロボットの基本機能や性能の検証ができる試験環境の提供を目指す。
- ◆ **ロボット開発イノベーションセンター（仮称）**
  - ・ コワーキングラボ、貸研究室、屋内ロボットの实証実験や性能測定の場を整備。
  - ・ ロボット開発におけるハブ拠点として、開発に係る情報を収集・発信、実証実験の成果などを共有し、効率的な開発支援を実現。



## 6 今後の事業の進め方

- ◆ 基本構想を踏まえた基本計画を令和3年度中に策定。
- ・ ロボット開発の対象分野や支援内容等を定め、整備内容・スケジュール等具体化。
- ・ 地方創生拠点整備交付金の活用、規制緩和、認証制度等の動向把握と対応、周辺市町との連携、アウトリーチ活動の実践を検討。